

第5回四国中央市障害児等福祉審議会会議録

日時 平成28年4月21日(木) 15:00～

場所 消防防災センター3階大会議室

出席者名(敬称略)

委員

藤枝俊之、山内紀子、東誠、井上俊正、福田裕史、合田志保、井上陽子、立花清香
森川恵里、高橋秀美

事務局

加地宣幸、戸田克明、石川光伸、曾我部公恵、宮崎百合、中谷郁美、近藤心平

1. 開会

委員長から開会を宣言

2. 議事

(1) 委員の変更について

事務局	3/14日付で岸田委員から本審議会委員の辞任届が提出され、同17日付で受理した。
委員	承認

(2) 第4回審議会会事録の確認

事務局	(会議録を説明。内容省略)
委員	承認

(3) アンケートの結果(第一次中間報告)について

事務局	アンケートのうち自由記述部分についてまだ整理ができていないため、今回は選択肢部分を主とした中間報告とさせていただく。自由記述部分については、次回までに整理し議論できるようにする。 (アンケート結果の説明。内容省略)
委員長	アンケートの結果について、思ったことを自由に発言してもらいたい。
副委員長	特別支援学級の保護者の回収率は低いのか。
事務局	低かった。

副委員長 回答者は、比較的障がいの程度が重い人が多いように見える。

事務局 その傾向は強いと感じた。中には「自分の子どもが障がい者扱いされているようで良い気分がしない」という意見もあり、障がいや課題の程度が低い人の関心の低さなども伺えた。

副委員長 計画には自由記述の原文をそのまま載せるのか。

事務局 原文をそのまま載せることが良いことかどうかはまだ判断できていない。類似意見を整理しながら考えていきたいと思う。
なお、アンケートの結果自体は、計画の添付資料という位置づけを考えている。

副委員長 一つ一つのテーマをオープン形式にして、市民参加型の議論ができないだろうか。またそのシステム作りができないだろうか。

事務局 ここにいる委員の皆さんと議論していきたい。

副委員長 予算を伴うものも出てくるので、審議会の中だけで施策を議論するのは難しいのではないか。

事務局 予算については次の段階の話しになるので、まずはニーズに目を向けていただきたい。アンケートの結果には保護者の願いが詰まっているので、これを元に議論し、施策を考えたい。当然施策には予算を伴うものが出てくるが、それは長期的な計画の中で位置づけていけばいいと考えている。

副委員長 会議の回数を重ねて、皆で一つ一つ検証していくのはどうか。

事務局 次回、自由記述部分を整理し、議論しやすいようお示ししたい。

森川委員 アンケートを実施して、保護者の声を聞いてみて、事務局はどう感じたか聞かせてほしい。

事務局 まず、アンケートをして良かったと思った。そしてこの結果を是非大勢の人に知ってほしいと考えている。
発達支援室への批判や、放課後等デイサービスに対する不満、保護者の悩みを聞くことができたので今後活かしたい。

森川委員 保護者の声をそのまま記述してくれたことはありがたい。読んでいると親としても学ぶことがあったので頑張っていきたいと思う。

- 井上(俊)委員 アンケートに書かれている現状を知らない市民は沢山いる。多くの人に理解されて過ごしやすい町にするため、どういう方法があるか計画の中で考えていきたいし、自分ができることをしていきたい。
- 合田委員 子ども若者発達支援センターに持たす機能について、アンケートの結果はとても参考になる。相談支援を軸に、各事業所の中心となるような存在になるべくシステム作りをする必要があると感じた。
- 副委員長 センターは施策の中心的な存在になるが、多々ある施策のひとつであることも忘れてはいけない。
- 山内委員 回答者の多くが重度な方の保護者であると思われるが、これらの方への資源は充実しつつある。そうではないグレーな方への支援を置き去りにする事がないようにしたい。
- 副委員長 未就学期、学齢期、社会生活期それぞれのステージが連続したものであること意識して、計画を作りこんでいかなければならない。
- 事務局 「福祉サービスを利用したことがない」と答えた方が3割おり、その内4割の方が「福祉サービスを知らない」と答えていることに驚いた。認知されていないのだろうか。
- 高橋委員 2極化しているのだと思う。保護者だけでなく、支援者についても、誰が情報の発信者であるかによって受け入れる側の積極性が変わってくると思う。
- 森川委員 保護者は受け入れようとしても、祖父母などが受け入れず、その結果保護者が消極的になるということが現実にある。「誰が」「どのように」というのは重要であると思う。
- 高橋委員 福祉については、使われる言葉が難しく、内容を理解しないままサービスを利用することがある。そのため理解に結びつかない事もある。
- 事務局 健診時に言われた言葉がキツイという意見が多かったが。
- 高橋委員 子育て中で視野が狭まっている時にかかる言葉は配慮しなければならない。
- 立花委員 親子ホームなどを利用していても、知りたい親に情報が行かないことが多く、古株の保護者が相談を担うことがある。親に対する学習の機会が必要だと思う。
- 事務局 親子ホームでは教えてくれないのだろうか。
- 井上(陽)委員 親子ホームも1事業所であるがために、他事業所を紹介したり、その情報を提供することは難しいのではないかと思う。
- 副委員長 自分にも言えることだが、名前を知っていても実態が見えていないと紹介し難いという理由があるのではないか。

- 高橋委員 紹介したことに対する責任を負うことが難しいという理由もあるのではないだろうか。情報を提供するためには、まず支援者が学ぶ必要がある。
- 森川委員 親が不安に思ったときに相談できる場所があればいい。
- 高橋委員 最近、手帳を取得するという意味を理解せず、サービスが受けられるからという理由で簡単に取得する人が多くみられる。
- 副委員長 周りが関わりすぎたことにより、子どもからのサインに保護者が気づきにくいという環境にある。今回の計画では、親の気づきを支援する方法を盛り込みたい。行政などからの声かけについては、保護者の受容力に左右されることもあるため、うまく行かない場合もある。それをどう埋めていくかも検討したい。
- 事務局 どの段階で支援をするのか判断が難しい。
- 山内委員 それは人それぞれであるため一概には言えない。必要となった時にすぐにサポートできるよう、支援者は常に繋がり、理解し準備していなければいけない。
- 立花委員 支援学級そのものを知らないという保護者もいる。障がいや発達課題に近づくことなく生活している人は、知る機会が無いのかもしれない。
- 森川委員 それぞれの現場で支援はしているのだが、繋がっていない。
- 高橋委員 障がいについて触れることを避ける風潮があるように思える。
- 副委員長 計画の中で災害時の支援について考えるとともに、障害児の防災計画も盛り込んでみてはどうかと思う。
- 事務局 周囲の理解や配慮を求める声がとても多かったが、これが一番難しいと思う。発達障害については、法律などの制度的にはここ数年でだいぶ認知されてきたと思うが、センターの建設で市民の関心を集めていければと思っている。
- 合田委員 啓発活動は行政が行っていかねば広がっていかない。民間と同じサービスを行政が行ってもいけない。困難事例など、サービスに繋がらないものを行政が担っていくべきだと思う。長期的な視野で関わっていくことが求められる。
- 事務局 本来ならば民間のとりまとめ、中心を担うのが行政の役割だと思うが、まだ資源が少ないため、民間と同じサービスもしばらくは担っていかねばいけない。
- 副委員長 人材が不足している、育たない理由には、臨床心理士、理学療法士など身近に目指すべき存在がいらないからではないだろうか。飛躍した意見かもしれないが、そこまで考えていくことが将来に繋がると考える。

事務局	市内に民間の医療福祉専門学校を誘致したことで、市民の意識も少し変わったのではないかと思う。
福田委員	地元には学校があるからといって、地元から生徒が集まっているというわけでもなく、全国から来ている。
副委員長	今のシステムは支援者個人に依存している。支援者も人間なので、いつまでも同じように積極的に関わっていけないわけではない。個人に依存しないシステムを構築していくことが求められる。
福田委員	活字を読まなくなってきている昨今、こういった形で広報していくかが課題になる。
立花委員	時間はかかるかもしれないが、学校の授業で取り上げてもらうことはできないだろうか。
委員長	生活の中で障がいや課題に関わり、話題を共有し繋がりを持っていくことが大切だと考える。
事務局	放課後児童クラブについての意見もいただいている。確かに子ども同士のトラブルがあり、その場しのぎの対応をしたため、また同じことが生じる事がある。関わる者への周知や教育が必要だが、数が多いためなかなか進まない。
森川委員	自分の場合は、学級懇談の際に他の親に対して、自分の子どもの事について全て説明している。今年から自分の子どものナビゲーションブックを作り教員や支援員に見てもらっており、好評を得ている。
事務局	広げていくのもいいかもしれない。
委員長	今日の資料を次回までに読み込んでいただき、次回、事務局で自由記述について整理したものを基にして施策を議論していきたい。

(4) その他

次回日程は予定どおり5月19日(木) 15:00~とする。

なお、前回お知らせした年間予定のうち7月分については、会場の都合により7月21日(木)に変更する。

3. 閉会

副委員長	色々な事柄をどう繋げて前に進んでいくか考えて行きたい。 技術はめまぐるしく進歩しており、お金をかけずに出来ることも多くあると思う。そういったアイデアを出していきたい。
------	--

